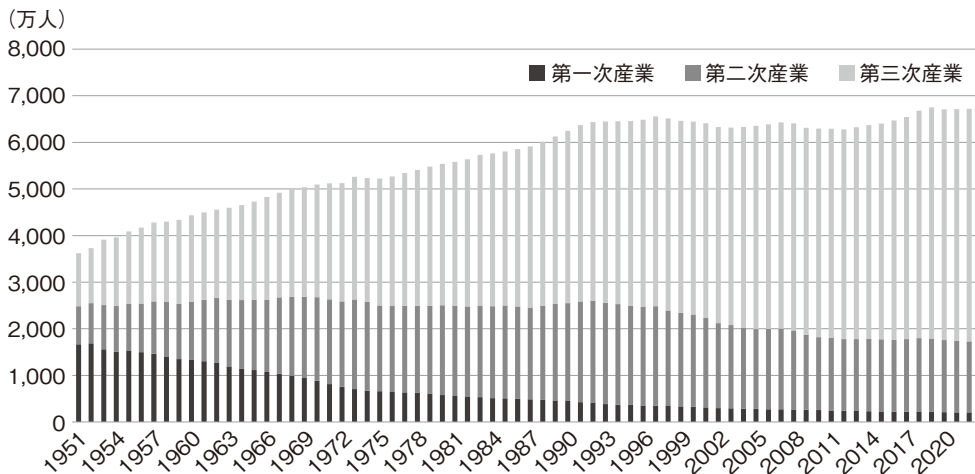


日本の産業別就業者数の変遷



第一次産業（農業、林業、漁業等）、第二次産業（工業、製造業、建設業等）、そして医療・福祉も含まれる第三次産業（第一次、第二次産業いずれにも分類されない広義のサービス業）。産業別の就業者をグラフ化すると、第三次産業の割合が急激に増加していることが見て取れる。一方、1950年代半ばからの高度経済成長により栄えた第二次産業は、安い海外への生産工程移転等により徐々に衰退している。また、かつては最も多かった第一次産業の就業者数は、現在、全体の1割にも遠く及ばない。こうした産業構造の高度化から、本来は不得手な感情労働に就かざるを得ない者も一定数おり、過剰なストレスへの対処に悩まされているものと想像される。

労働政策研究・研修機構「早わかり グラフでみる長期労働統計」、総務省統計局「労働力調査」より作表